

高等教育グローバルセンター長あいさつ

秋田大学が創立70周年を迎えた本年4月、高等教育グローバルセンターは、従来の教育推進総合センターと国際交流センターの機能を統合する形で誕生しました。

教育推進総合センターは、秋田大学の理念と教育目的に沿って、教養基礎教育を中心とする教育体制の構築と教育活動の推進、及び調査・研究活動による教養基礎教育と専門教育の改善・充実を担ってまいりました。他方、国際交流センターは、国際交流に関する企画・広報活動の活発化、国際学術交流の推進と留学生受入体制の整備、並びに本学学生の海外派遣及び海外実習への支援などを国際化支援という観点から、留学生の支援、本学学生の海外留学、国際交流教育などの支援を担ってまいりました。

今回の両センターの統合による新センターの設置は、それぞれが担ってきた目的と役割を一元化することで、より効率的・効果的に教育および国際交流を充実させることを意図したものです。

新しく発足した高等教育グローバルセンターは、「教養基礎教育と国際交流を中心とする多様な教育・研究活動の推進」「外国人留学生(特に正規生)の受入れの推進」「日本人学生の外国語運用能力の強化、及び海外留学の推進」の3つを、大きな目標として掲げています。いずれも、秋田大学が次なるステップへと飛躍していくためには欠かすことのできない重要な課題です。

急速に進むグローバル化に即応した人材の育成のためには、本学学生の言語運用能力の向上と留学の促進が大きな鍵となります。卒業生を対象として3年に1度行なっている「教育成果の検証に関する調査」においても、在学中にもっと勉強しておけば良かった科目として、「国際言語科目」が毎回最上位に上がってきています。他方、海外からの留学生に対しては、本年度から英語による教養教育科目を充実させることで、より本学に留学しやすい環境の整備にも努めています。

まだ発足して間もなく、手探りの面も多いセンターの活動ではありますが、秋田大学の発展のために、センターの教職員が一丸となって取り組んで参りますので、みなさまには、さまざまなお助言とともに、よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

高等教育グローバルセンター長 志立 正知



高等教育グローバルセンター 組織概要

・センター長

志立 正知 (理事(教育・学生・地方創生・広報企画担当)・副学長)(理事室:本部管理棟3階)

・副センター長

小川 信明 (理事(研究・産学連携・国際交流・国際戦略担当)・副学長)(理事室:本部管理棟3階)

・副センター長、教育推進主管、教育活動部門長

後藤 猛 (理工学研究科・教授)(研究室:理工学部4号館116)

・教育開発部門長

徳重 英信 (理工学研究科・教授)(研究室:理工学部1号館412)

・国際交流部門長

杜 威 (教育文化学部・教授)(研究室:教育文化学部4号館514)

・教員

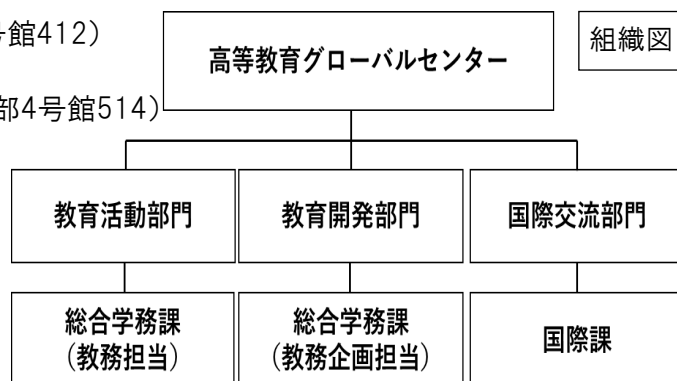
市嶋 典子 (准教授)(研究室:一般教育1号館2階)

濱田 陽 (准教授)(研究室:学生支援棟2階)

Ben Grafström (講師) (研究室:学生支援棟2階)

吉沢 文武 (講師) (研究室:学生支援棟2階)

浜田 典子 (助教) (研究室:一般教育1号館2階)



国立台湾大学と協定締結

窓口教員 理工学研究科 福山 繭子 講師

2019年3月7日(木)、山本文雄学長が山村明弘大学院理工学研究科長、福山繭子同研究科講師等とともに国立台湾大学を訪問し、大学間学術協力協定を締結しました。

国立台湾大学で執り行われた署名式では、両大学間の交流促進に尽力している黄茂雄中華民国工商協進会栄誉理事長・東元集団会長の同席の下、山本学長と管中閔国立台湾大学学長が和やかな雰囲気の中で意見交換を行い、協定書にそれぞれ署名しました。山本学長からは、「本協定に基づき、特に両大学間で交換留学生の派遣と受入れが早期に実施されるとともに、黄会長の協力も得つつ、これまで以上に教員間での研究交流が促進されることが望まれる」との挨拶がありました。



締結式の様子

協定書を手にする山本学長(左)と管学長(右)

留学体験記 ルーマニア ブカレスト大学

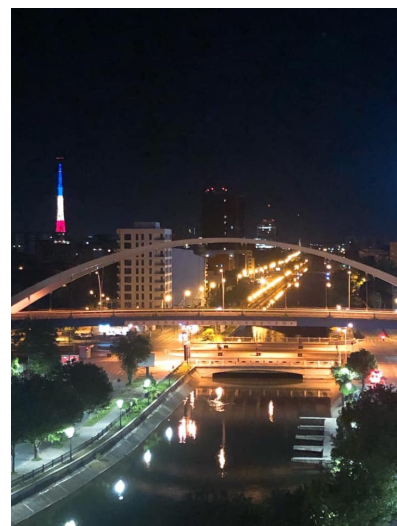
国際資源学部 国際資源学科 資源政策コース 4年次
佐々木 一路

もしあなたが留学をしたいと考えているのであれば、ぜひブカレスト大学に決めてほしいです。ブカレスト大学は東欧にあるルーマニアの首都に位置する大学です。ルーマニアは日本から馴染みのない国ですが、とても治安が良く、日本人にとっても住みやすい国です。

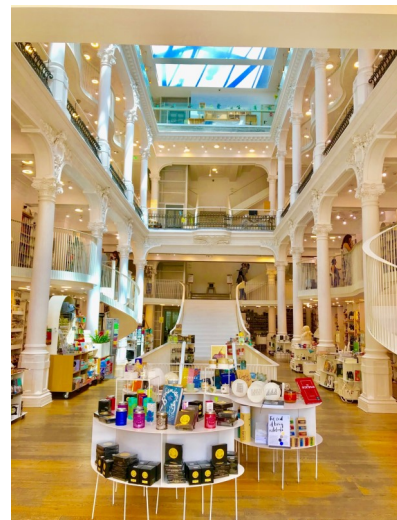
ブカレスト大学の授業は英語で受けられるものが多く、本人の努力次第できっとクリアできます。教授たちのサポートも手厚く、私も何度もお世話になりました。学生同士で協力し合って課題をすることもあり、コミュニケーションがしっかりとれる充実した学習環境が整っています。

課外活動でも、学生は鉄道の利用が無料で、国内観光だけでも満喫できます。また、ブカレスト内では常に多くのイベントが行われており、興味のある分野にコミットできます。ルーマニアの人は本当に日本文化を愛しているので、すぐに友達もできます。みんな優しく、私もいっしょに遊んだり、英語を教わったりしました。

大変なこともあります。それすらも楽しんで乗り越えていこうと思える、そんな場所です。



学生寮からの夜景



世界トップ100の本屋さんのエントランス

2019年度<第2回>秋田大学海外留学説明会開催のお知らせ

【日時】10月16日(水)16:10~17:30

【会場】手形キャンパス 一般教育1号館 208

【対象】留学に少しでも興味のある学部生・院生

【内容】

- ・秋田大学交換留学制度
- ・海外短期研修
- ・学生による留学体験発表
- ・トビタテ!留学JAPAN
- ・イングリッシュマラソン

【問い合わせ】国際課 留学生交流・支援担当

TEL : 018-889-2258 E-mail : haken@jim.u.ac.jp

気軽にご参加
ください♪

平成30年度教養基礎教育優秀授業奨励賞表彰状授与式

2019年7月23日(火)、平成30年度教養基礎教育優秀授業奨励賞 表彰状授与式を執り行い、高等教育グローバルセンター長 志立正知理事より、表彰状の授与が行われました。本奨励賞は、教養基礎教育科目の授業評価(総括的評価)において、「学生からの評価」が特に高いと認められる科目の担当教員に対し、質の高い授業を提供し、本学の教養基礎教育に貢献したものと副賞の教育研究経費とともに授与しています。

平成30年度教養基礎教育優秀授業奨励賞 受賞者

- 教育文化学部 長谷川 章 教授
- 高等教育グローバルセンター 濱田 陽 准教授
- 高等教育グローバルセンター 吉沢 文武 講師

表彰状授与式後の懇談会では、優秀授業奨励賞に選ばれた教員3名から授業で工夫していることなどについて意見が交わされました。

【優秀授業奨励賞受賞教員が実践している授業における工夫】

- ・学生の理解度を確認しながら授業を進め、初めて学ぶ内容に関心を持ちやすいよう映像(アニメーション等)を用いるなどしている。
- ・課題評価に用いるルーブリックは、評価項目の設定を学生と一緒に行うことで、学生が評価基準と目標に納得して学習を進めることができるようにしている。
- ・演習において、事前準備の段階で面談などの機会を設けたうえで、発表から質疑・議論までを学生自身が仕切る経験が得られるようにしている。
- ・学生との信頼関係を築き、積極的に取り組む雰囲気を持続することを重視し、学生一人一人の活動をよく見て、学生を理解するという心を心がけている。



(左から)後藤教育推進主管、長谷川教授、志立理事、濱田准教授、吉沢講師、徳重教育開発部門長



懇談会の様子

平成30年度 第2回全学FD・SDシンポジウム

「ルーブリック評価入門～時短・プレない・公平な評価方法～」

2019年3月4日(月)、大阪大学特任講師の浦田悠先生を講師にお招きし、平成30年度 第2回全学FD・SDシンポジウム「ルーブリック評価入門～時短・プレない・公平な評価方法～」を開催しました。本シンポジウムは、成績の厳格性・公平性が求められる大学教育において、ルーブリック評価に関する理解を深め、取り入れていくことを目的に実施されました。ルーブリックの概念から作成方法、様々な事例について講演いただき、実際に授業で活用できるルーブリックを作成する過程までを体験する機会になりました。当日は、本学および県内他大学の教員・職員を中心に68名が参加し、盛会となりました。

参加者の声として、初めてルーブリックに触れたが、授業でどのように用いるか具体的に考えることができたという感想や、自身の授業にルーブリックを導入するモチベーションがもてたといった声がありました。また、実際に作業することで理解が深まったという声や、評価基準を明確にすることの重要性、評価の時間を短縮するのに有効であることが分かったといった感想も寄せられ、学びの多い非常に有意義なシンポジウムになりました。

シンポジウムの様子は、2020年3月末までAU-CIS「秋田大学職員向け公開動画集」にて公開しています。今後も引き続きFD(ファカルティ・ディベロップメント)・SD(スタッフ・ディベロップメント)活動による教育改善・充実に努めるとともに、このような教職員の交流の場から新たな出会いや可能性が生まれることを期待しています。



講演・ルーブリック評価体験の様子

第1回留学生寮周辺町内会交流事業

2019年6月22日(土)、旭川地区コミュニティセンターにて、本学地域住民に留学生への理解を促すことを目的に、本学外国人留学生、留学生寮周辺の町内会の方々、本学日本人学生がグループになり、新たな寿司を考案するという活動を行いました。お互いの知恵を出し合い、第3のものを作るという過程を通して、相互理解を深めました。

「寿司開発プロジェクト」

教育文化学部 特別聴講学生 キム スヨン

寿司開発プロジェクトでは、私が思っていることと違う寿司を作りました。いろんな国の料理を酢飯の上に載せていなり寿司を作ったり、海苔の上に酢飯と作った料理を敷いて巻きずしを作ったりして材料も形も多様な寿司の開発ができました。私のチームはコチュジャンサムギョブサル寿司を作りました。みんなと一緒に作って食べたせいか本当に美味しかったです。このプロジェクトの特別な点はそれだけではないです。留学生と日本人の交流ができます。私が留学に来た理由は、日本の文化や言語を学びたくて来ましたけど、なかなか日本人と交流するのが大変だと思いました。しかし、このプロジェクトでは、地域の3歳の子供から70歳の老人まで、そして秋田大学の日本人友達が参加して、一緒に寿司を作りながら、あるいは作った寿司を食べながらだんだん日本人と親しくなれました。とても珍しいチャンスだったと思います。また機会があったら参加したいです。



完成したお寿司を紹介するキムスヨンさん

専任教員からひとこと：グローバル人材とは何か

2019年4月より、教育推進総合センターと国際交流センターが統合され、高等教育グローバルセンターが発足しました。グローバル人材というと、語学力や海外経験が注目されがちですが、日々、教育や業務に携わる中で、本当にそれで良いのだろうかという疑問があります。2000年に大学審議会により公開された「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」には以下のように記載されています。

グローバル化時代に生きる新しい世代には、地球社会を担う責任ある個人としての自覚の下に、学際的・複合的視点に立って自ら課題を探究し、論理的に物事をとらえ、自らの主張を的確に表現しつつ行動していくことができる能力が必要とされる。さらに、その根底には、深く広い生命観や人生観の形成、自らの行為及びその結果に対する深い倫理的判断と高い責任感を持って行動する成熟度が求められる。

上記では、より理念的なグローバル人材像が示されています。このような人材を育むための教育、研究とはいかなるものか、その理念と方法を考えることが喫緊の課題であると考えています。

高等教育グローバルセンター専任教員 市嶋 典子 准教授

2019年4月～8月実施 高等教育グローバルセンター事業

- 4/2 留学生オリエンテーション
- 4/3 留学生歓迎会
- 5/10 第1回海外留学説明会
- 7/23 「平成30年度教養基礎教育優秀授業奨励賞」表彰状授与式
- 7/30 留学生修了記念パーティー



国際交流関連データ

- 国際交流協定校数
(2019年8月13日現在)
大学間協定(30カ国・地域60大学)
部局間協定(17カ国・地域29学部等)
- 留学生数 (2019年5月1日現在)
合計 202名
学部生 92名 大学院生 67名
交換留学生・研究生等 43名

編集・発行：高等教育グローバルセンター
連絡先：

国際課(国際交流部門事務担当)
総合学務課(教育活動部門・教育開発部門)

TEL:018-889-2870 E-MAIL: kokusai@jimu.akita-u.ac.jp
TEL:018-889-3192 E-MAIL: kyomusom@jimu.akita-u.ac.jp